

□ 書 評 □

Diseases of the Liver & Biliary System

5th Edition

Sheila Sherlock

新潟大学医学部教授

市田 文弘

London 大学 Sherlock 教授の Disease of the Liver and Biliary System が 1968 年に第 4 版としてでてから 7 年経って、ここに新しく第 5 版が発刊された。この本は肝・胆疾患に関する外国の書物の中で最も理解しやすく、かつ最も多くの人によって読まれているので、とくに書評することもないので、この第 5 版で新しく取上げている事項について紹介する。

周知のようにこの 7 年間で肝研究において最も進展をみたのは肝炎ウイルス、とくに B 型肝炎ウイルスに関するものである。すなわち B 型肝炎ウイルスの指標となる HBs 抗原—抗体系、HBc 抗原—抗体系、さらには e 抗原—抗体系の検出が可能になり、しかも B 型肝炎の発症には細胞性免疫の関与が重要であることが明らかになった。そして B 型肝炎ウイルスの感染による肝炎の転帰として慢性肝炎、肝硬変、肝臓が成立す

ることも確実になった。この第 5 版では従来 Hepatic cirrhosis の章に含めていた Chronic hepatitis を新らしく章として、Chronic persistent hepatitis, Active chronic 'Lupoid' (HB Ag negative) hepatitis および Chronic liver disease with positive HB Ag に分けて彼女ら一派の仮説を混ぜて論じている。そのほか新しい章として Acute (fulminant) Hepatic Failure を設け、その病態生理についてのべるとともに Temporary hepatic support として新らしく Extra-corporeal liver perfusion を加えているが、最近話題になっている Charcoal Haemoperfusion について触れていないのが淋しい。しかし最終章では肝移植の現況と問題点について可成り詳細にのべ、この研究はもっと続けられねばならぬことを強調している。また肝・胆・膵疾患の診断における EPCG を含めた X 線診断法の進歩の結果を

各章で随所におり込んでいる。さらに胆汁の物理化学的性質と胆石形成における、bile salt, lecithin, および cholesterol の 3 要素の関係を解説し、胆石溶解で話題になっている Chenodeoxycholic acid の役割についても評価している。

この第 5 版では第 4 版よりも 141 枚の写真を新しく加え、全部で 370 枚の写真が挿入され、一部はカラー写真に変えている。また疾患の成立を理解し易くするため随所に彼女独得のシェーマを入れているのも新らしい。

この版は学生諸君を含めて研究者に廉価で提供するために、医学書院からアジア版として発行されている。

821 pp./370 figs./some in color./5th ed./1976/定価 ¥ 9,800
Blackwell Scientific Publications Ltd., Oxford

日本総代理店 医学書院洋書部